

仮設のデザイン

対象地 不動通り地区

不動通り地区は景観形成重点地区の候補地区に位置づけられており、昔ながらの商店街の雰囲気や歴史的な成り立ちがある場所である。



現況分析

- 毎月行われる縁日や朝市、金沢市との友好を祝すイベントや地域プロレスとのコラボなど様々な取り組みが活発になされている。
- 板橋宿として栄えてきた街であり、歴史を感じさせる建物やファニチャーがある。



▲2018年に開催されたラッピーフェスタの様子



▲江戸時代の遊び「ものひろい」をモチーフにした舗装

課題

- 店舗の売上や来客数の減少、空き店舗の増加など
- 自転車利用者が多く、交通事故の危険性が高い
- 立ち止まったり、座って寛げるスペースが少ない

テーマ 「仮設のデザイン」

イベントをより盛り上げ継続していくことで近隣住民の商店街への愛着を育み、新規利用者や後継者を確保することができると思う。だから私は、縁日や朝市などで利用する「仮設の場」をデザインすることでイベントの魅力向上の一助となる提案をしたいと思う。商店街の道路は通行止めとする。また同時に、人が止まれる空間や歩行者が安全に歩ける空間を生み出すデザインを考えたい。



▼各スポットの利点、欠点、改善案

概要	利点	欠点	改善案
① 仲宿商店街との接点	交差点に三角形の広めのスペースがあり、自然な緑陰もある。	交差点のそれぞれの道から自転車のまま入ってくる人がいて、少し危ない。	フェンスや花壇を配置することで自転車を自主的に降りてもらい安全を確保する。
② カフェ「おとなり」前の道路	カフェ「おとなり」があり、空き家も近くにあるため人のとどまる場を確保しやすい。	立ち止まったり、座って寛げるスペースが少ない。	オープンカフェを開き人が止まる場を生み出す。
③ 観光センター前	幅員が広く、人通りも少ないため物を配置するのに適している。	観光センター前ならではの店がない。	歴史を感じさせるデザインをすることで、この場所特有の良さを生み出す。
④ 住宅地とつながっている脇道	工夫次第で住宅から人を呼び込める。	電柱が残っており、他の場と比べて景観的な魅力に劣る。	フェンスと花壇を配置し殺風景な壁を隠しつつ、景観を飾る。
⑤ 国道沿いからの入口	幅員が広く、無電柱化も相まって見通しが良い。空が広く見える。	イベント時もテントが少なめで、人を惹きつける力が弱い。	フェンスを活用してバナーラッグに視線が映るようにし、イベント感を増幅する。

脇道過ぎ



板橋宿は中山道、宿場町という変遷を経て、地域の方々が利用する商店街へと姿を変えた。この歴史を経て受け継がれた、一本の通りを挟んでお店が立ち並ぶこの形態は、地域の方々にとって身近な場所となっているのであろうか。周辺住宅地域と商店街を結ぶ“脇道”に焦点を当てた、脇道デザインを提案する。

01. 背景



平安時代：中山道、駅伝制
近世：宿場町（板橋宿）
→各国との連絡や政府のために利用されていた。



明治時代：宿駅制度は廃止されたが、板橋宿は徒歩旅行者で盛え、貸座敷業や料理店が営まれていた。



現在の不動通り商店街

商店街は、一本のメイン通りに建築（お店）が道を挟んで立ち並ぶ形態を持つ。これは板橋宿に中山道、宿場町という歴史があったことが起因している。明治以降の交通事情等の変化で板橋宿は姿を変え、地域の方々が利用する“生活の場所”商店街となった。

- ・この商店街という形態は生活の場所として適さないのではないか。
- ・一本の通りと周りの住宅街がより身近な存在になるためには、その境界である“脇道”が、重要な場となるのではないか。

02. 調査・分析

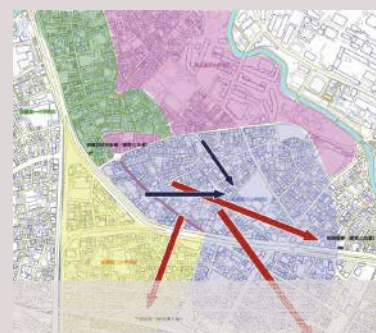
調査① - 各脇道



番号	名称	幅	長さ	用途	特徴
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14

右図のように番号をふり、それぞれの脇道を分析を行った。(上図)調査①、②の結果を踏まえ、各脇道を3つに分類し、各エリアからデザイン対象を1つずつ選択した。
(③、⑨、⑫)
a. 住宅地エリア
b. コミュニティエリア
c. 動線エリア

調査② - 動線



駅やバス停、小学校区の範囲から、人々の動線を推測した。商店街を通勤通学で通過する場合もあり、日常の利用だけでなく、通過する際にも脇道の有用性がありそうと捉えた。

03. デザイン

コンセプト

住宅街と通り、公私の境界である“脇道”は、商店街が生活に身近な場所となるために、生活の風景が通りへしみ出す場所となる。分析をもとに、公の場でありながら私の利用を行う場として機能する、各エリアに必要な形を考える。

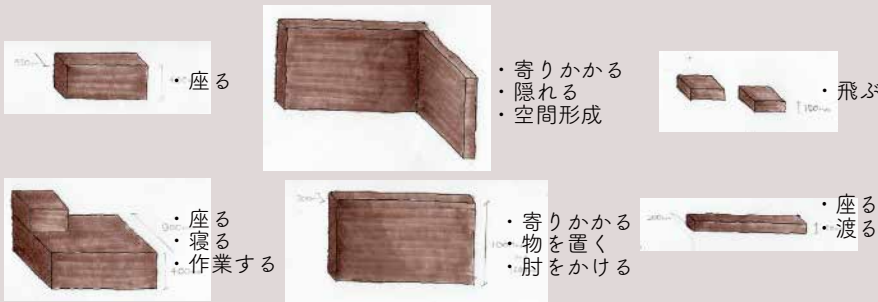


生活の風景が通りへしみ出させる場所

よって分析より、各エリアには次のような場を形成する。

①ファニチャー

木材のファニチャーを脇道に設置する。設置するものは6つのうち各脇道に適するものとする。



②舗装

商店街から人の流れを誘発するために、歩道の舗装が脇道までしみ出させる。

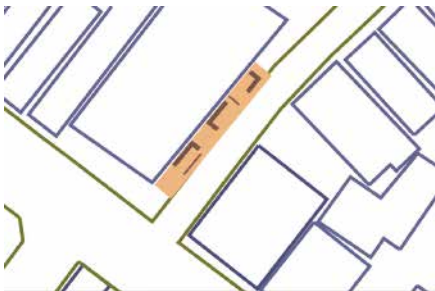


a. ゆったり道



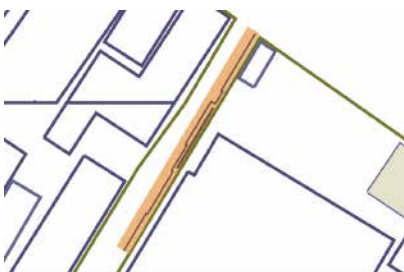
狭い道を自転車も通れるよう、動線を妨げない位置にファニチャーを設置する。通りから一番近いところでは周辺の住宅の子どもたちが遊ぶ光景を、また、途中曲がる道であることを生かし、角では人々がゆったりとお話ししている光景が見れる設計とする。

b. おはなし道



花の湯があった、住民達にとって思い出深い商店街の中心となる場所。その跡地に新たな建物が建ったとき、今までは狭かった道が広がった。周りにスーパー等があり商店街の中でも“滞在”を求められているここに、その広がった部分を生かし、昔同様に、コミュニティの中心の場を形成する。

c. 寄ってこ道



駅や小学校に向かう人々の動線となりうるこの脇道は、人々がその足を止めて立ち止まる場所となる。ここで家族と合流し、残りの帰り路の時間をともにする。

低い高さのファニチャーは人の流れに合わせて設置し、待つ子どもの待機場所のエリアを示し、合流すると手を繋いでその上を歩いて遊ぶ場所ともなる。

個人のみどりを、みんなのみどりに。

個人の彩りを、みんなの彩りに。



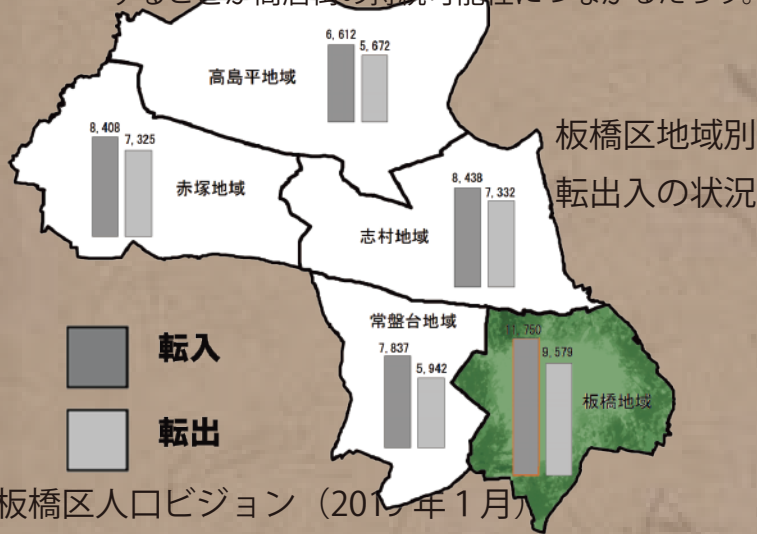
種とともに育つ商店街。
 種のように個性・歴史ある
 不動通り商店街で時を過ごし
 様々な発見や成長を
 することができるだろう。

人との
 分離の

不動通り商店街周辺には高層マンションがどんどん建設されているため、新規住民が増加している。(以下地図より)その新規住民が不動通り活性化に参加することが商店街の持続可能性につながるだろう。

緑の
 分離

住宅街は地先園芸のある住宅が多く、緑の欲求の高さが伺える。しかし不動通り商店街にその特徴は薄い。(以下緑視率より)



歴史の繋がり
 地先園芸は江戸時代の園芸ブームから始まった。またここ中山道板橋宿は江戸時代に江戸(現日本橋)と京都を結ぶ宿場の広がっていた街道。巢鴨周辺の花道沿いにはかつて多くの種屋が存在し、野菜が盛んに栽培されていた。

提案内容

住宅街の緑を商店街へ反映させる。種の面白さを知ってもらう。方法としては、住宅街でいらなくなった鉢植えや種を譲り合う、または購入する場を設け、商店街の園芸循環サイクルを作る。

商店街にみんなで種を植え、商店街の人が育てて行くことで、住民と商店街の交わりが生まれると同時に、商店街の景観が緑や花という統一感を持つ。

不動通り商店街といえば、園芸と言われ、タネとともに成長しながら循環する商店街へ。



種の機能

個性

種によって咲く花は異なる。
同じ花の中でも個性を出す価値が生まれる。

記憶

思い出や歴史として記憶に残すことができる。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12



※翌年まで冷暗所

江戸園芸

江戸時代の園芸ブームは、
一般庶民から大名まで幅
広く広まった趣味である。
その中でも中山道沿いで
菊・朝顔・撫子にまつわ
る祭りも開かれていた。



撫子

菊

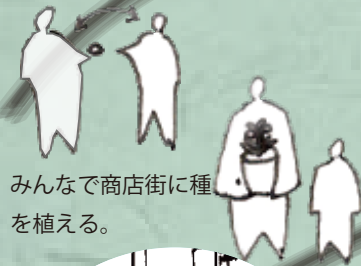
朝顔

朝顔
撫子
菊

出会い

縁宿広場で出会う

既存住民
×
商店街
×
新規住民
×
園芸



みんなで商店街に種
を植える。

成長

新たなネットワーク

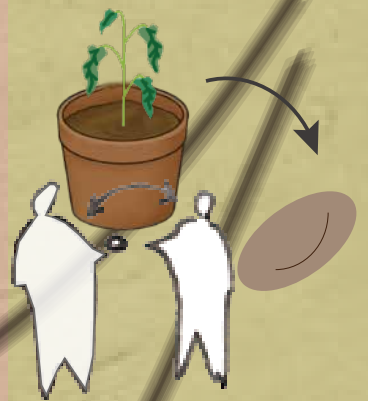


成 熟



商店街以外の地
先園芸を縁宿広場
に集めること
で商店街を彩る。
近隣住民は
皆顔見知りの
関係に。

広がり



種や余った
挿し木のシェア

同じ植物でも
異なる場所や環境
で育った種から育
つ花は異なる

1年単位でこれが繰り返される。1年ごとにどんどん緑量も

地域のコミュニティも広がって行く

縁 一つながりの庭

不動通り商店街には、シャッターの閉まってしまった店舗がいくらか存在する。日本の「縁側」に着目し、その軒先の利用を考え、人々の「縁」を繋げる空間を創出する。利用者の様々なニーズに応えられるデザインを大切に、イベントの開催によって地域住民の交流を促進する。



現況分析



不動通りのシャッター店舗にはどのようなものがあるのかを調べ、それぞれの空間に合わせた提案を考えるため、分類分けを行った。調査より以下の4種類に分けることができた。

- ・屋根（有）、軒先（広） 5ヶ所
 - ・屋根（有）、軒先（狭） 6ヶ所
 - ・屋根（無）、軒先（広） 3ヶ所
 - ・屋根（無）、軒先（狭） 7ヶ所
- 計 21ヶ所

課題

大きく2つの観点から見た課題が挙げられる。

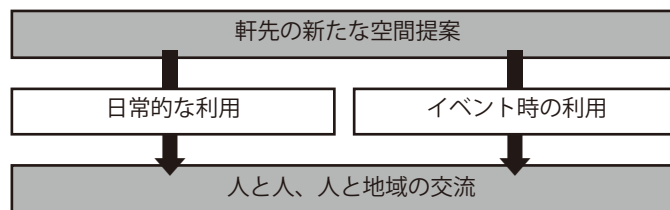
・景観的課題

シャッターの閉じた商店街からは活気を感じることができず、その地域の将来性にも影響を及ぼす。地域住民を留めるだけでなく外から人を呼びこむために改善が必要である。

・機能的課題

店が閉まり、人々に使われていない空間をそのままにしておくことは地域にとってもメリットがない。商店街には「スキマ」としてポテンシャルを秘めた空間が点在しており、新たな可能性の創出に繋がる。

基本方針



板橋宿、旧中山道である不動通り商店街には古くからの街並みが一部に残されている。新たな提案をする上で、そのような景観に配慮しつつ地域に馴染み住民にも愛される空間をつくる。

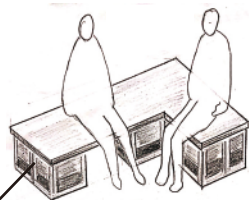
提案

木材とビール瓶の空きケースを用いて縁台を作成する。ビール瓶の空きケースは近隣の居酒屋から調達する。作成する縁台は3種類である。それぞれ軒先の広さや屋根の有無、その他のニーズに合わせて設置する。

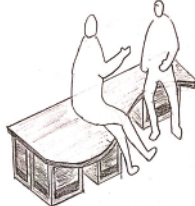
<L字型>

より交流を深めるデザイン。人と人のコミュニケーションを促す。

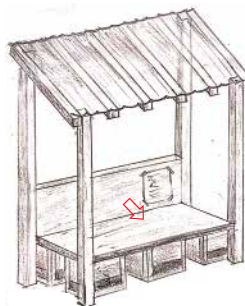
なお、L字型に比べて曲線型の方がスペースを取らない。



<曲線型>



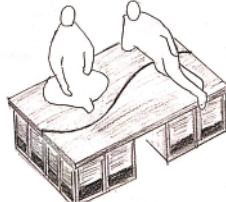
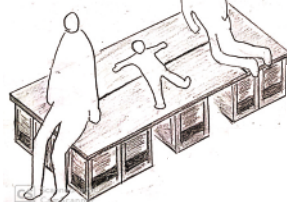
<屋根付き壁型>



普段は縁台となる部分は、壁ようになっており掲示板などとしても利用される。利用者は使うときに壁を手前に倒して座ることができる。主に軒先に屋根がない場所に設置する。

ビール瓶の空きケース

2つ組み合わせることで



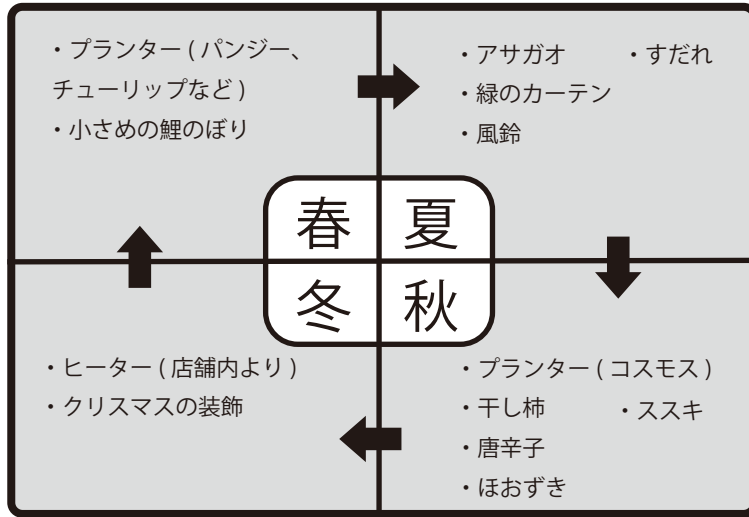
縁台が広くなり、新たな利用の可能性が生まれる。

縁台の設置について

シャッター店舗

- ・屋根（有）、軒先（広） → L字型
- ・屋根（有）、軒先（狭） → 曲線型
- ・屋根（無） → 屋根付き壁型
(軒先の広さに合わせて)

季節ごとの装飾



縁側は庭に面しているのが一般であり、外部環境と強い結びつきをもつ。縁側には季節を表す外的因子が必要不可欠である。そこで縁台を装飾することにより、季節に合わせて気分が変わるような演出を取り入れる。これにより利用者は一年を通して新鮮な気持ちで使うことができる。またそれが会話やアクティビティのきっかけにもなりうる。

広がるイベントの可能性



縁台の作成

地域の子どもなどを集めてみんなで作る。自分たちで作ったものの方が愛着も強くなる。



縁日の休憩場所・プロレスの観戦場所

自由に移動できるという縁台のメリットを活用。縁宿広場に並べることで座席にもなる。



花や野菜の栽培

縁台を彩る季節の花やゴーヤを分担して栽培。小学校で育てたものの再利用。ガーデニングなど趣味の場にも。



秋の昆虫採集

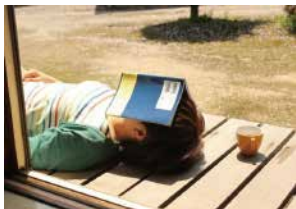
コオロギなどを捕まえてきて、虫かごに入れ縁台の下に設置する。同時に世話もする。

なぜ縁側なのか

ベンチは基本横並びに人が座る上、一度に使える人数も限られている。しかし縁側は数人が同時に利用できる。特にこの提案では縁台を組み合わせたことができ、より広いスペースを使うことができる。そのため、ベンチよりも多くのアクティビティの可能性が生まれる。

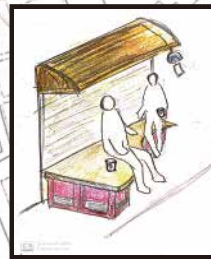
また縁側は本来、屋内と屋外を繋ぐ場所である。店舗と通りの境界に位置する縁台が、それぞれの緩衝材的な役割を果たし、商店街の中で家のようにくつろげる空間を生み出す。

古くからの景観に調和しながらも新しい提案をつくるために縁側に着目した。



利用のイメージ

読書のほか、近隣の店舗の商品を食べたり飲んだりする場として機能する。



カフェでテイクアウトした飲み物を持った男性2人が談笑している。



子連れの女性が縁台でくつろいでいる。



古本屋に立ち寄った男性が縁台で本を読んでいる。

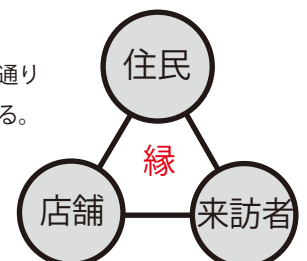
夜間や雨天時について

夜中縁台を出しておくことは、ホームレスに利用されてしまうなど治安の悪化に繋がる恐れがある。近隣の店舗が店内に収納するよう協力していただく。

雨天時は「L字型」「曲線型」の縁台は特に濡れないように気をつける。

期待できる効果

縁側を通して住民と近隣店舗だけでなく、たまたま通りすがった人など来訪者も一つの「縁」によって結ばれる。新たな交流が生まれ、不動通り商店街という大きな「庭」の中でコミュニティがさらに形成されていく。

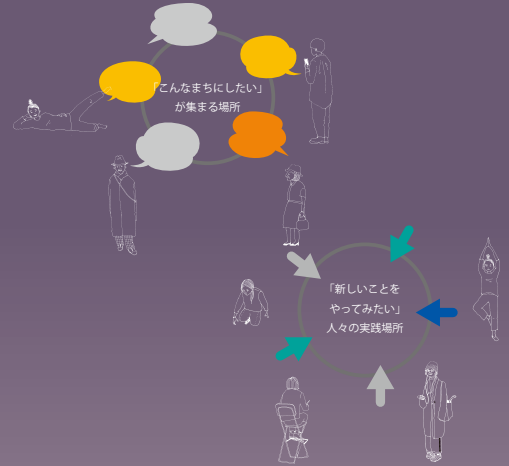


フドウのカド

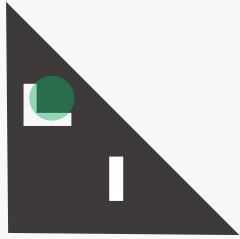
—カドからつくる不動通りの骨格—

●概要

カドをきっかけにして人が店を呼ぶ、そんな手作りの骨格の商店街を提案します。不動通り商店街の朝市に伺った際、「何か新しいことをやろう」という宿場町の文化の根づきを体感しました。しかし、お話の中で「第一声をあげる人がこの通りにはまだ少ない」という現状をお聞きし、日常の会話の中で第一声をあげるきっかけを場所から作れないか？そしてそれを実践にうつすことでまたそれが「新しいことをやろう」という原動力になるだろうと考えました。提案では大きく2つ、「こんなまちにしたい」という声が集まる場所と「新しいことをやってみよう」という人々の実践場所を提案します。



●提案



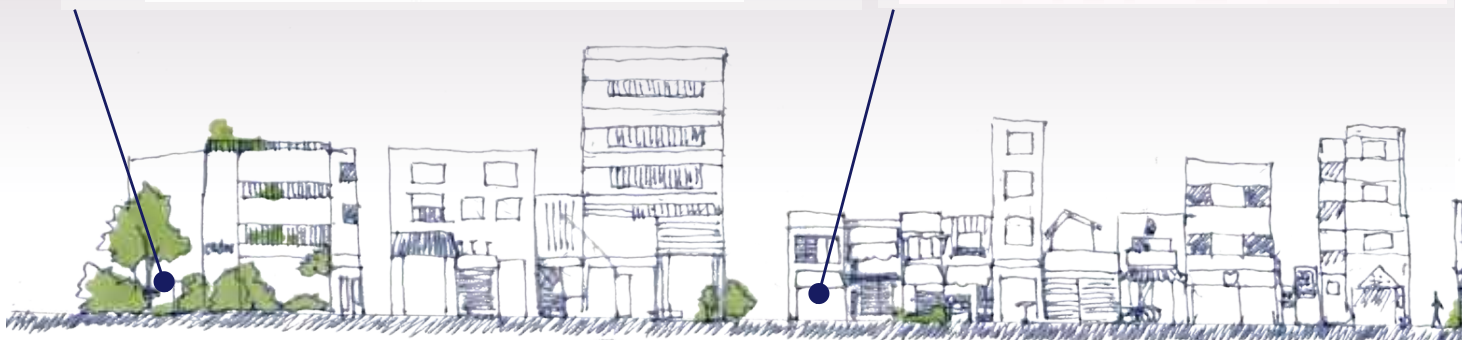
出会いのカド

不動通り商店街の入り口である交差点に、朝市やイベント、日々のお買い物の際の待ち合いの場をつくる。
変電設備に掲示されている常に最新のイベント情報に目を通したら、トチノキの木陰のベンチにもたれて待つ。



発信のカド

1F奥～2F
宿泊施設
1F店先
チャレンジ
ショップ



● 現況分析・手法

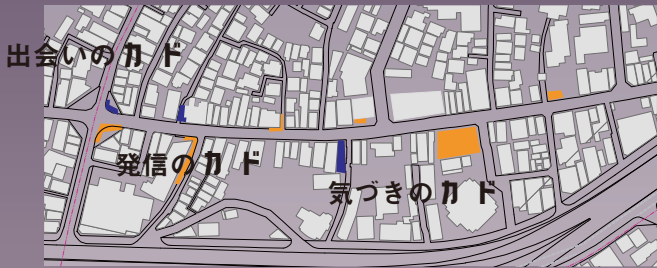
① 不動通りの既存の人の溜まり場を分析する



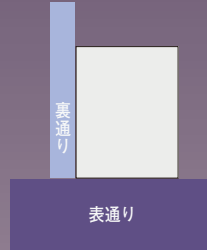
既存の溜まり場＝街角に存在していた

滞在時間、人数、利用のされ方を分析
場所ごとに異なる性質を手掛かりに新たなカドを設定

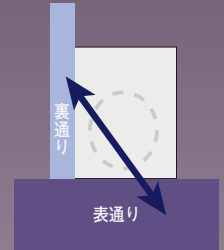
② 人通り・滞在時間を分析し新たな「カド」を設定



対象とするカドは
1辺が表通り、
もう1辺が裏通りに接している



カドを通り抜けることにより
暮らしと賑わいが
入り込む場所に



多様なイベントを受け入れることで、
多様なイベントが通りに開かれる



映像制作 × 上映会



アート × 個展・販売



コレクター × 大人の緑日



気づきのカド

昼時はサラリーマンで賑わう
この小さい広場。囲われた柵
の代わりに、寄りかかるタイ
プのベンチをカドに対し切り
込む形で配置する。
通りを向くことで適度な人の
気配を感じながら、何かひら
めくかもしれない。



夜は江戸染め

不動前商店街をウォーミングアップする

商店街の背景

都営三田線板橋区役所前駅下車徒歩1分。
旧中山道、第一の宿場、板橋平尾宿に位置。
大正時代より商店街として現在に至る。
毎月第三日曜日には朝市が開催される。
歴史のある建築は残ってる。



観明寺



朝市

商店街の問題点

- ・夜は暗い。
- ・営業している店が少ない。
- ・客少ない。

住民たちの
要望

店の人の
要望

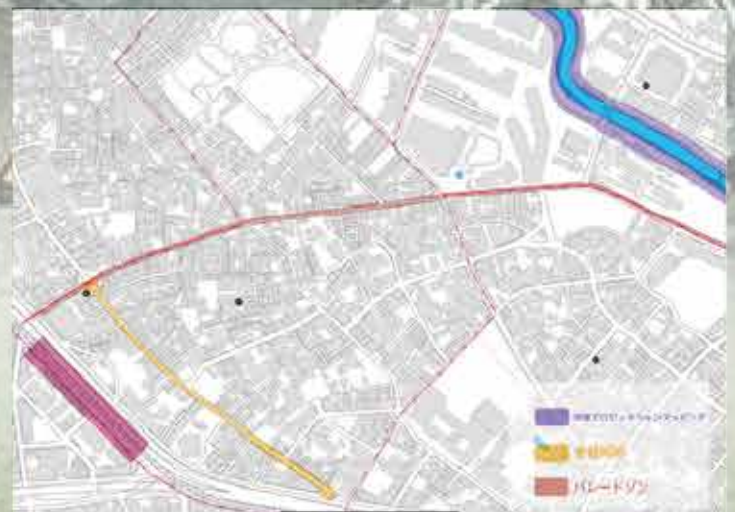
両方満足で
きる提案



現在の夜の街並み

提案

日常的に景観照明で、空き家や夜営業してない店をライトアップする。不動前商店街に暖かくイメージを作る。
イベントの日プロジェクションマッピングの手法を使い、光だけで江戸の雰囲気を作り、不動前商店街に楽しく斬新な空間を作る。





今の様子



普段でもやる
景観照明



ウォーミングアップ後



プロジェクショ
ンマッピング後
の状態



イベントのときの風景



不動前商店街に提灯を掛け、
壁た地面にプロジェクショ
ンマッピングで飾り、町の
雰囲気江戸へ



江戸仮装パレード予想図



川沿いの堤防に江戸絵巻のような
プロジェクションマッピングを展開、
水の流れとともに、時の流れ感じる

近く住民たちはもちろん、
外国人観光客もターゲット

地域に育まれたキャラクターを生かすまちづくり

<板橋区不動通り商店街における地域振興>

・要旨

東京都板橋区における商店街の一つである仲宿不動通り商店街を対象地とし、商店街の周知及び振興を図る計画を考える

・現況分析及び計画

現状の板橋区不動通りの状況を見て醸成された文化に基づく価値と新しいものに挑戦しようという雰囲気をも併せ持つ場所だと感じた。特にラッピーという商店街のキャラクターと板橋プロレス協会に所属する様々なレスラーは地域を盛り上げるシンボルとして振興及び周知に非常に役立つと考えこの二つを主軸として計画を考えることにした。

・提案1 <ラッピー暖簾>

一つ目の提案としてラッピー暖簾というものを提案したい。右上に例があるが、このような感じでそれぞれの店舗の軒下に大きな暖簾を作るイメージである。例で言えば、ラッピーがコーヒーを飲んでいる様からカフェであることが視覚的にわかりやすい。この提案の主なメリットとして、歩いている人の目に、文字だけでなく、イラストが見えることで注目してもらいやすくかつ自分がその店で何ができるのかがとてもわかりやすいため来店してもらいやすくなることが挙げられる。また商店街に統一されたサインを生み出すという意味でもこの提案は有用であると考えられる。

・提案2

提案の二つ目はご当地レスラーステッカーである。この提案は板橋プロレス協会に所属するレスラーをキャラクターとしてステッカーにし、防犯や防災を呼びかけるグッズにするというものである。この手案によるメリットは大きく分けて二つあり、プロレスのイメージ改善と社会的弱者の保護である。プロレスというと、出来レースや暴力といったマイナスイメージが先立つ人も多くいると思うが、合わせて防犯イベントなどに参加していくことで、地域住民を守るヒーローとして2.5次元的なキャラクター性を活かし社会的弱者を守るシンボルとなっていくことが期待できる。



ラッピー暖簾



ご当地いたプロレスラーステッカー



提案メンバー



今回の板橋区不動通り商店街の活性化課題を通じて、中広域的なスケールのデザイン手法、板橋区江戸時代から近代まで歴史変遷、現商店街のポテンシャルの再活用、魅力的な商店街のにある特徴等様々な知識を得、とても貴重な経験でした。



初めて訪れた際、街の人々や雰囲気にとっても暖かい印象を抱きました。近年都市化が進んでいく中で、この街の暖かいイメージを残すとともに、そのイメージをもっと伝えることのできるようなプランを考えました。



板橋のあたりはあまり利用したことがなかったのですが、今回調査をしてみても面白い街だと思いました。地元商店街に対する愛や人々の暖かさを感じることができました。提案に関しては、もっと具体的などころまで詰められたら良かったです。



今回の提案を考えたことでどんなまちにも魅力はつまっていて日常を素敵にする可能性に溢れていることに気づき、そういった発見を大事にして今後も実習課題に取り組んでいきたいなと思いました。



今回の実習では、商店街とは何か、なぜ残していくべきなのか、自分なりに考えました。商店街に限らず、何かを残していくということか、そのために何が変わっていかなければならないのか、難しいけれど人生の中で大切なことを考えられるきっかけになったと思います。



不動通り商店街により多くの人が継続的に来てくれることを見つけるには、何があれば自分が行きたくなり、何を求めて自分がそこに行くのか、地域の人々の立場に立って今ある商店街の魅力を残したまま変えていくことが重要だと思いました。



今回の実習では商店街の活性化という今までと少し方向性の違う課題に戸惑うことも多く有りました。しかし、商店街を様々な観点から観察し、一つの提案にたどり着けたことは自分にとって大きな自信となりました。



私は仮説デザインに関する提案をしました。実際に対象地に住んでいる人と話をし、計画をするのは初めてだったので、この経験を今後に生かすより実現性の高い計画を提案できるよう励みたいと思います。

時代の流れとともに地域との繋がりが薄れてきている今日において商店街は、今は薄くかもしれない、けれどもまだ繋がりの名残をとどめている場所だと捉えました。鎌倉の頃から、そしてこれからも人々が集まる潜在性を持つ場所、商店街の重要性をこの提案を通して学びました。

不動通りの活力ある方の多さに驚きましたが、実際はどこにでもそういう人は隠れているから行動を始め、そんな人々を巻き込むことこそが大事なんだと教えて頂き、地元商店街に目を向けるきっかけとなりました。

今回、提案として実現可能なものであり、かつ地域が一体となれるようなものを目指したいと考えました。最初にやりたいと思っただけの内容を最後までやり通せたことが今回の一番の収穫ではないかと考えています。



インターネットが普及し交通もさまざまになっていく現代のスピード感の中で、商店街は今誰のためにあるのか、どんな場所であるべきかを考えさせられました。板橋宿でおもしろいことがたくさん生まれますように！

私は不動前商店街が好きです。この商店街に昔の看板や建物はまた残っていて、昔の日本の商店街に歩いているように感じられます。商店街のみんなも商店街愛を持つ情熱な人間ばかりです。毎回みんなと話せる時、楽しかったです。

今回の実習では商店街を振興させるという地形に関するデザイン的な要素だけでなく、どうすれば人が集まるのか、よりよく暮らせるのかというその地に住む人のことも考えなければならぬという点があり、今までと違う視点で課題に取り組むいい機会となりました。

指導教員

池邊このみ 千葉大学大学院園芸学研究科・園芸学部 教授

山下 英也 千葉大学園芸学部 非常勤講師
同大学院園芸学研究科 客員准教授
株式会社 地球スケッチ 代表取締役

